

雪上アイス作り「どうして塩を撒くの？」

札幌市立手稲中央幼稚園（北海道札幌市）

[5歳児]

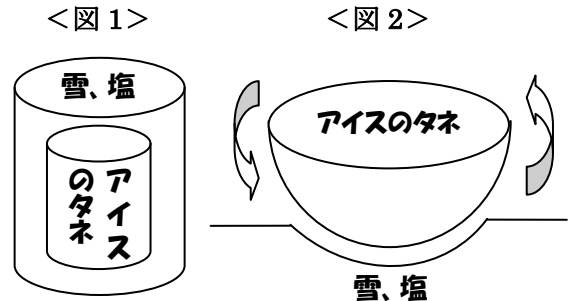
園庭の雪山でソリ滑りを楽しんでいたK児が、「先生、年少（4歳児）の時さあ、なんかミルクの缶みたいなので、アイス作んなかったっけ？また、作って食べたいな」と保育者の所にやって来た。K児と一緒に昨年の楽しかったことを思い出しながら、材料や作り方などを話し、「明日しようね」という約束をする。

昨年の冬の経験

<図1> ミルク缶にアイスのタネ（牛乳、生クリーム、砂糖）が入ったスチール缶を入れ、その周りに雪と塩を詰める。ふたをして、ミルク缶を投げたり転がしたりし、10分後にはアイスクリームができて上がる。

<図2> 雪の上に塩を撒き、その上にスチール製のボウルを置く。ボウルに乳酸菌飲料を入れて、雪上で回転させながら泡立て器でかき混ぜる。5分ほどでアイスになる。

どちらの方法も経験し、作ることと食べることを楽しんだ。



幼児の姿

・翌日、K児は朝から意欲満々。保育者が用意しておいたボウル、泡だて器、乳酸飲料を持って戸外へ駆けて行く。

・「ここで作ろう！」とイグルー（子どもたちと一緒に作った雪のドーム）の前に陣取り、作り方を思い出しながら作り始める。

・保育者が塩を取り出すとK児は、「あれ、塩を入れるんだっけ？」と不思議そうな顔をする。

K児「どうして塩を撒くの？」

保育者「どうしてだろう？」

K児「雪をボウルにくっつけるため？」「ボウルを回しやすくするため？」「塩が（アイスの中に）入って、美味しくなる！」などいろいろと考える。

・集まってきた友達と一緒にアイスを作り、美味しく食べる。後から参加してきた友達に、「塩を雪の上に撒くんだよ」と伝えている。



保育者の見取り・願い○／援助・環境構成*

○昨年の経験を生かして、冬ならではの遊びをまた楽しんで欲しい。

*簡単にできて、友達と力を合わせてできるよう、ボウルや泡だて器を準備しておく。
○この遊びをとっても楽しみにしていたようだ。K児のその思いを実現させてあげよう。

○昨年も塩は使っているが、覚えていないようだ。昨年は何の疑問ももたなかったが、今年は「何故？」という思いが湧き上がった。

*塩をどうして撒くのか回答は出さずに、保育者も一緒に考えながらK児の考えを聞いてそのやり取りを楽しむ。

○ちょっとした疑問だが、幼児なりに考えを巡らせている。様々な考えが出てきて、K児自身も楽しさが増している様子。

○友達にも自信満々と伝えている。

*K児の考えを聞き、いろいろな発想の面白さに共感する。

考察

・幼児自身が「どうして？」と感じる心で遊びに関わった時、自分なりに考えること自体も楽しんでいたと考える。保育者が答えを知らせるのではなく、一緒に考えたり、互いの考えの面白さを感じたりできるようにしたことで、疑問自体はそのまま残し、考える楽しさを味わわせることができたと考え。

・冬という季節の中で出会う雪や氷といった自然の物は、本園では日常的に触れている物だが、少し違った視点から見たり焦点を絞って見たりすると、幼児も興味をより高め、その不思議さに気付いていく。発達段階に応じて、自然の不思議さに触れたり感じたりすることができるような、遊びの投げかけや環境の構成が、身近な自然に自ら関わろうとする意欲につながると考える。

みどころ

K児にとって前年冬の「アイスを作って食べた」という体験が印象的で、雪遊びをすることで思い出したのでしょう。材料や作り方など印象に残っている事柄を思い出しながら再現しますが、5歳になったK児の関心事は「どうして塩を撒くのか？」という一歩踏み込んだ部分でした。幼児期にこうした実体験をすることで「想像する心」「探求する心」「考える心」が生まれ、学びの意欲につながっていきます。